

有隣堂、社会貢献活動の一環として

**ドキュメンタリー映画『Return to My Blue』を応援**

～医療的ケアが必要な子どもの“無人島への挑戦”を、店頭から紹介～

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市、代表取締役 社長執行役員：松信健太郎）は、社会貢献活動の一環として、2026年7月24日（金）公開のドキュメンタリー映画『Return to My Blue』を応援します。

本作は、人工呼吸器をつけた10歳の少年・壮真（そうま）さんが、「無人島に冒険に行きたい」という思いを胸に、母親や医師、ボランティアらとともに沖縄の無人島への旅に挑む姿を描いた作品です。

当社は、医療的ケアが必要な子どもとその家族、そして支える人々の姿を伝える本作のメッセージに共感し、店頭でのチラシ配布、ポスター掲示、サインージ放映、オリジナルしおり配布などを通じて作品を紹介します。



※画像はイメージです

オリジナルしおり

**■取り組みの背景・意義**

当社はこれまで、「文化、教育に関する商品の販売を通じて地域社会に貢献する」ことを経営方針に位置づけています。一方で、書店を取り巻く環境が変化する中、地域に根ざした書店が果たす役割は、本や商品の販売だけにとどまりません。

地域の課題や活動をお客様に知っていただく接点となり、理解や支援の輪を広げていくことも、これからの書店に求められる役割の一つだと考えています。

当社が重視しているのは、手の届く範囲で、顔の見える支援を行うことです。地域に根ざした書店として、支援を必要とする人や団体の活動を知っていただく機会をつくり、社会課題や地域活動への理解を広げてまいります。

今回の取り組みは、「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」への支援活動をきっかけに発足した、部門横断の社会貢献活動プロジェクトチームの第一弾として実施するものです。同チームでは、一人ひとりが自分の力を十分に発揮し、誰もが可能性に挑戦できる社会を支えることを活動の軸に捉えています。

その第一弾の活動を検討する中で、病気や障がいがあっても、自分の思いに向かって挑戦する姿を描いた映画『Return to My Blue』と出会いました。本作のメッセージは、当社が進める社会貢献活動の考え方と重なるものであり、多くの方に届けたい作品であると考えています。

今後は、店舗や学校、企業などと連携し、上映会や社会貢献について考えるワークショップの開催も検討してまいります。

### ■ 当社のこれまでの社会貢献活動

2026年4月より、金沢八景にある「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」の支援活動を継続して実施しています。

「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」は、小児がんや進行性神経変性疾患など、生命にかかわる病気とともにある子どもとその家族が、自分らしく過ごせる“第二のおうち”のような場所です。支援者・利用者の双方における認知度の向上や、活動資金の確保が課題となっていることから、有隣堂では店舗を通じて活動を知っていただく機会づくりに取り組んできました。

具体的には、2026年4月から関東圏38店舗で募金箱を設置したほか、横浜駅西口店、たまプラーザテラス店、伊勢佐木町本店では、関連書籍フェアやパネル展を実施しました。また、ブックカバーを作成・配布し、店頭でお客様に活動を知っていただくきっかけをつくりました。

今回の映画『Return to My Blue』の応援は、こうした福祉活動への理解を広げる取り組みの延長線上に位置づけるものです。映画を通じて、医療的ケアが必要な子どもたちやその家族の思い、そして支える人々の姿を伝えてまいります。

### ■ 映画『Return to My Blue』について

『Return to My Blue』は、人工呼吸器をつけた10歳の少年・壮真さんと母親が、電気も水もない沖縄の無人島への旅に挑む姿を描いたショートドキュメンタリーです。

「ほしいものは、何もない島にあった。」

本作のポスターに掲げられたこの言葉は、便利さや安全が整っていることだけでは測れない、子どもの願いや挑戦の意味を象徴しています。

春休み、小学校の連絡帳に「無人島へ冒険に行ってきました」と書いたら格好良くないか。そんな純粋な一言から始まった旅を、医師やボランティアら少人数のチームが支えます。

「人工呼吸器も、車椅子も、冒険を諦める理由にはならない。」

多くの人が「不可能」と思う環境の中で、自分の思いを実現しようとする子どもと家族の姿、そしてその挑戦を支える人々の姿を通じて、誰もが自分らしく生きるために必要な理解や支援のあり方を伝える作品です。

監督・プロデューサーは、NHK連続テレビ小説『あんぱん』『エール』、大河ドラマ『どうする家康』などで監督を務めた野口雄大氏。本作が自身初のドキュメンタリー作品となります。

### ■ 有隣堂での展開内容（一部店舗除く）

#### • チラシ配布

有隣堂各店の店頭で、映画『Return to My Blue』のチラシを配布します。来店されたお客様に、作品を知っていただくきっかけをつくります。

- ポスター掲示

映画の公式ポスターを掲示します。日常の買い物の中で、作品のキービジュアルや「ほしいものは、何も無い島にあった。」というメッセージに触れていただく機会をつくれます。

- サイネージ放映

店頭でのデジタルサイネージを活用し、映画の告知動画を放映します。映像と音を通じて、映画『Return to My Blue』の世界観を伝えます。

- オリジナルしおり配布

映画公開直前の期間、対象店舗にて映画デザインのオリジナルしおりを配布します。しおりには、映画のビジュアルに加え、「人工呼吸器も、車椅子も、冒険を諦める理由にはならない。」というメッセージを掲載します。また、公式サイトや予告編につながるQRコードを掲載し、店頭で作品に触れたお客様が、映画の情報へアクセスしやすい導線を設けます。  
※配布方法は店舗により異なります。

## ■ 作品概要

- 作品名：Return to My Blue
- 公開日：2026年7月24日（金）
- 上映館：  
キノシネマ横浜みなとみらい、キノシネマ新宿、キノシネマ立川高島屋S.C館、キノシネマ心齋橋、  
キノシネマ神戸国際、キノシネマ天神
- 監督・プロデューサー：野口雄大
- 公式サイト：<https://return-to-my-blue.studio.site/>
- 上映時間：【39分】

## ■ 会社概要

会社名：株式会社有隣堂

所在地：神奈川県横浜市中区伊勢佐木町1丁目4番地1

創業：1909年

事業内容：書籍・雑誌・文具・雑貨等の販売、法人向けサービス、教育・文化事業、各種メディア運営ほか

公式サイト：<https://www.yurindo.co.jp/>